



編集 社会福祉法人おおぞら会 アクティビティセンターはばたけ
編集責任者 入倉 暁子

〒181-0014 東京都三鷹市野崎3-17-9
0422-32-3234 FAX 0422-32-3274
URL <http://habatake.jp/>

^



謹 賀 新 年



歩いていこう...

手を取り合いながら、ゆっくり自分たちの歩幅で...

(写真: はばたけ利用者)

2011年度は、東北での震災をきっかけに「地域とのつながり」を考えさせられる一年となりました。私達おおぞら会にとっても地域の中で一人一人が活躍できる場、安心して過ごせる場を広げるためにかねぬけた一年でした。8月に開所した「工房 時」「野ざきの家」。そしてはばたけ・サポートネットあすは・あすはKids・つなぐなかまの家・さくらハイツ・ショートステイさくら各事業が一人ひとりの生活を支えています。今年も利用者・職員一同ますます力を合わせて頑張っていきたいと思います。

本年もおおぞら会をよろしくお願いいたします。

2012年を迎えて、皆様に新年のご挨拶を申し上げます

社会福祉法人おおぞら会
理事長 西原 雄次郎

昨年は私たちの国にとっても、私たちの法人にとっても、大きな出来事が続いた年でした。年末に恒例になっている、その年を象徴する漢字として、「絆」という字が選ばれました。なかなか当を得た選択だと思いました。私は、昨年11月に宮城県名取市にある社会福祉法人みのり会を訪問して、津波で建物が全壊したにも関わらず、当日の出席者全員が避難できた状況とその後の悪戦苦闘の様子を見聞させていただきました。特に震災後の全国からの支援の様子を聴くと、「絆」ということの大切さを痛感させられました。徐々にではあっても復興への取り組みがおこなわれていますが、一方で「どうしてあの時助けられなかったのか」といった気持ちから抜け出せず、なかなか前向きになれない人達も沢山おられるのも事実です。最も厳しい体験をされた人達を「置いてきぼり」にせずに、絆を大切にして、皆で復興を目指して欲しいと願うばかりです。



昨年3月14日、余震の続く中で、私たちの法人の新しい事業所の上棟式が行われました。若干工期に影響はありましたが、8月から新規事業を開始しています。それは、知的障がいの方々への就労移行・就労継続支援の事業「工房 時」と、認知症対応の高齢者向け小規模多機能型居宅介護事業「野ざきの家」の二つです。知的障がいの方々の働く場として準備を進めてきました讃岐うどんの店「おもむく食堂」も併設し、1年365日休むことのない事業所として運営が始まっています。知的障がいの方々と高齢者の事業所を同じ場所で開設し、相互に自由に出入りできる空間づくりは、これからの都市部での福祉施設の在り方の一つのモデルにもなるのではないかと考えています。

一方、築後13年が経過しました「アクティビティセンターはばたけ」の大規模改修にも取り組み、2月上旬には工事が終わる予定です。またこれまで続けてきました「つなぐ仲間の家」「さくらハイツ」「ショートステイさくら」「サポートネットあすは」「あすは Kids」の各事業所もそれぞれ課題を抱え



つつ、新しい年に踏み出しつつあります。使って下さる方々の必要に応じたサービスを提供し続けるために、知恵を出し合っていきたいと思えます。

財政的に厳しい状況が続きますので、働いて下さる方々には苦勞をお願いしていますが、利用して下さる方々がいる限り、私たちは事業を続けます。応援して下さる皆様を支えられて一步一步進んで行きたいと思えます。何卒、変わらぬご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

アクティビティセンターはばたけ

今年3月に事業移行を予定しているはばたけ。旧法の「知的障害者通所授産施設」から障害者自立支援法の「生活介護事業」へと変わります。現在、新しい活動の場所をつくるための改修工事中でもあり、大きな変化の中にあります。そのため年末年始もあわただしく過ぎましたが、利用者みなさんはこの変化を「あたらしい仲間や活動のため」と理解して(感じて)、不便で窮屈な環境でも、お互いに助け合いながら乗り切ろうという光景が見られ、それが職員の奮起材料にもなっています。



利用者みなさんは、それぞれに様々な障がいがありますが、それをサポートする人や安心できる居場所があることで、持っている力や可能性を發揮することができます。今年は新しいスタートの年になります。ひとりひとりのいいところを見つけ、それを活かせる新しいとりくみも考えながら、より充実した活動の場にしていきたいと思しますので、今年のはばたけもどうぞよろしくをお願いします。



(サービス管理責任者：柴田信)



工房 時

8月に開所した工房 時。スタートから5ヶ月が経ちました。メンバーも増えて、現在は19名の方が通所しています。猛暑の中で新しい仕事に慣れるのに大変でしたが、今は皆さんの仕事ぶりが頼もしく見えてきました。うどん店「おもむく食堂」は、お隣の巣立ち会の方を中心に、毎日ご来店をいただいています。製菓部では、新製品のフィナンシェとサブレの販売を開始しました。製麺部は人数も増え、販路拡大のための会議を開いています。調理部は、野ざきの家の皆さんの食事作りもあってフル稼働！という毎日を送っています。これまでのはばたけでの活動をベースにした、時での新たなチャレンジ...それぞれの部門で、皆さんの得意とする事・持っている力が「おいしい」モノ作りの仕事で發揮されつつあります。こうした日々の努力を工賃に反映させたい、それには販路・集客の拡大が当面の課題です。

次に目指すものは「つながり」コミュニティ作りです。

時の自主製品・店舗を活用して地域との関係をどう作っていくか？アイデアを出し合い、取り組んでいきます。

今後ともよろしくをお願いします！

(事務統括：中野昭精)



おもむく食堂 店舗内で
クッキー販売開始しました！



移動支援(居宅介護)事業

サポートネットあすは

障害を持った方々へヘルパーを派遣する事業を立ち上げて早5年。当時は、はばただけ内に事務所を置く小さな事業所でした。その後、NPO法人「サポートネット武蔵野」の事業を引き継ぎ、「サポートネットあすは」として、利用登録者数も300人を超える程の大きな事業所へと変貌を遂げました。現在、視覚障害者児の同行援護、知的障害者児の移動支援、そして、最近は居宅介護サービスの提供も増加しています(視覚障害者児の移動支援は、今年10月から国の制度として、同行援護という位置づけへと変わりました)。

移動支援は、「外出介護」と呼ばれていた時代もありました。ご家族の都合による利用から、ご本人の意向を優先し、よりご本人が生活していく為の手段となるよう、提供する側も利用する側も、制度を活かす意識を高めていかなければなりません。そのためには、ご本人が物事を選択し決定する、という力が必要となります。その力は、障害に左右されるものでしょうか。本来、みんなが意思を持ち合わせているはずであり、その意思を表現できるような環境を持ち合わせているかどうかにかかってくるのではないかと思います。時として、周囲にいる私達の意識こそが見えない障害になっている現実があるのかもしれない。人として豊かに生きていくために、当たり前のことを当たり前に実践していく「サポートネットあすは」...そんな存在でありたいと思います。

例えば、デートへの付き添いや、着物をきての川越散策、など面白い発想による外出がありました。また、一緒に喫茶店でゆっくりお茶をしながら街並みをみている、というごく平凡なひとときを大切にしている外出もありました。「その人らしい生活感があらわれる」、そんな充実した利用につながることに、私たちの存在が生かされれば、と願っています。
(コーディネーター:内田絵里)

児童デイサービス

あすは Kids

「あすは Kids」...障害のある児童の放課後、集団生活の場を提供し、子供同士の遊びや、支援員との関わりの中での健全な成長を目的としています。

あすは Kidsには自閉症の子供たちが多く通っています。一人遊びの好きな子どもたちが多く、パズルをしたり(すごいスピードで!)、ミニカーを自分の目線の高さに置いて動かしたり(臨場感が増す!分かる!)、絵を描いたり(壁にも!笑)...一つのことに集中できるすばらしい力にいつも感心させられます。ただ様々な個性を持っている子どもたちが、一緒に遊びながら影響しあい、楽しみ、成長しあえれば、さらにいいなあ...と考えています。

近隣の小金井公園や中央公園に行くことが多いのですが、グループで遊ぶ様子が見られるようになってきました。数名の子供たちが、ボールをサッカーのように蹴りながら追いかけてっこをしたり、砂場で山を作ったり水を流したり、木登りをしている友だちを見て「僕もやりたい!」と職員に要求して来たり...いっしょに楽しみ、影響し合っている様子が見て取れます。

遊びを通し、楽しみながら友だちとの関係を深め、コミュニケーションの質を高めていかれるような支援を心掛けています。人とやりとりをする楽しさを知り、自分を主張する、相手を認める...子どもたちに、そういった力を身につけていてほしいなあと考えています。

(管理者:立野信行)



表現したいこと いっぱい!



グループホーム・ケアホーム

つなぐなかまの家



おおぞら会第1号グループホーム・ケアホームの「つなぐなかまの家」は、この2月で6年目を迎えます。昨年は4月に新しい職員も加わり、入居者4名の皆さんは、楽しいなかにも、時々ヒヤヒヤ、たまにドッキリも味わいながらの1年であったと思いますが、それぞれの暮らしをつくりあげてきました。

昨年いちばんの出来事は、入居者の皆さんそれぞれの個室にテレビを置いたことでした。それまでは、リビングに1台のテレビで、お互い我慢も少々...ということもありましたが、好きな時間に見たい番組を楽しめるようになりました。もちろん、団らんの時間にリビングのTVを見ることもあります。団らんは、共同生活の中で、譲り合い、認め合い、支えあえる関係を築く大切な時間です。入居者の皆さんが、ほっとできる場になるよう、また健康で元気にいられるよう、今年もがんばってきたいと思います。

(世話人：藤田晴彦)

洗濯・八百屋さんへのおつかい...

生活するって忙しい!



さくらハイツ

「おはようー!」朝7時を過ぎると、各部屋から入居者のみなさんが集まってきます。朝食は7時半からですが、「今日は休みだから」と少しゆっくり食べに来る人、世話人からの「ごはんできたよー」のひと声を待っている人、早々と起きて朝食の準備を手伝ってくれる人...と様々です。さくらハイツはアパート形式のホームなので、ひとりひとりのプライベートな空間、時間は守られながら、共有スペースで食事をしたり、世話人や仲間とおしゃべりしたりTVを見たり、それぞれの時間を過ごします。日中は違う職場や日中活動の場に出かけますが、「さくらハイツに帰ってくるとホームの仲間がいる」...そんな暮らしは、現在のメンバーになって2年になるうとしています。



心地よい自分の空間です

誕生会をしたり、近くの井の頭公園でお花見をしたり、楽しい行事もあるさくらハイツの生活ですが、違う暮らしをしてきた5名が共に生活をするのですから、小さな生活習慣の違いが問題に発展することもあります。そんな時は、「話し合っ、どうしたらよいか皆で考えよう」をモットーに入居者間でミーティングを行っています。皆が暮らしやすい「家」にするためにどうしたら良いか...ひとりひとりの意見が出るよう、世話人からも「どう思う?」と投げかけます。皆もあれこれ考え、「次のミーティングでこんな事を話したいな」と意見を出してくれるようになりました。

リラックスできて暮らしやすいホームになるよう、これからは試行錯誤を繰り返しながら、ひとつひとつ積み上げていきたいと思います。

(世話人：志摩華子)

小規模多機能型居宅介護 **野ざきの家**



2011年8月にオープンした野ざきの家も、少しずつ利用者の方が増え、にぎやかになってきました。毎日おしゃべりをしたり、犬の散歩に行ったり、お菓子作りをしたり、配膳を手伝っていただいたり・・・何気ない日常の繰り返しですが、そんな穏やかでその方らしく過ごせる時間を何よりも大切にしていきたいと考えています。スタッフの子どもさんも時々“出勤”してくれて、可愛らしい仕草や笑顔でみんなに笑いと癒しを与えてくれています。野ざきの家になくてはならない存在です。

そんなのんびりゆったりな野ざきの家ですが、11月には初めての大きなイベントとして、全員で八景島シーパラダイスに行ってきました。大きな水槽に回遊する魚たちや、見事なイルカショーに皆さんびっくり。思い思いのペースで楽しまれていました。昼食は久しぶりの外食で、ラーメンやハンバーガーなど、日頃はなかなか召し上がらないメニューを堪能されました。

認知症のために、日にちが経てば“誰と水族館に行ったんだっけ？”と忘れてしまう方もいらっしゃいます。それでも、その時その時の皆さんのいきいきとした表情、笑顔は本当に素敵で、その瞬間を楽しまれていたことには違いありません。きれいな魚に見とれたこと、お仲間同士で笑いあったこと、久しぶりのラーメンが美味しかったこと・・・きっと心のどこかに楽しかったこととして刻まれているのではないかと思います。

日常の積み重ねを大切にしつつ、季節感を感じられるような外出やイベントも時には取り入れながら、利用者の皆さんに、そしてご家族の皆さんに、「野ざきの家はいいいね」と言ってもらえるよう2012年も職員一同頑張っけて参ります。皆さんどうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

(管理者：西田さおり)



ショートステイさくら

緑深い井の頭公園を抜けて、繁華街のある吉祥寺の駅に徒歩10分...そんな好立地にあるショートステイさくら。2DKの小さな事業所なので、1日に泊まれる人数はお二人です。一緒に夕飯のお買い物やコンビニに出かけたり、ちょっと朝の散歩...とご希望に沿っていろいろな過ごし方もしますが、まずは自宅のように“ソファでごろごろ”とゆったり過ごしていただけるよう心がけています。

利用者の中には、ショートステイに泊まり、次の日そのままガイドヘルプでお出かけ...なんていうアクティブな方もいらっしゃいます。また「うちの子は新しい環境が苦手だけど、少しずつ利用していく中で、緊急時にも安心して預けられたら...」と体験的に利用を希望される親御さんもいます。初めは躊躇していたのが慣れて「今日ショート」とうれしそうにバックを持って帰るようになった利用者さん、「家よりショートがいいみたい」と苦笑しながらもご夫婦の時間を有意義に使われるようになったご家族などの声もあります。

それぞれの生活の幅を広げる一歩としても、暮らしの中の選択肢にショートステイが加わってくれたらうれしいなと思います。

(管理者：入倉暁子)



普通のおうちみたいに・・・

おおぞら会後援会ニュース



あけましておめでとうございます

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。旧年中は、おおぞら会後援会の活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。昨年はおおぞら会の事業展開に伴い、後援会として「おおぞら会を支える千人会」を通じ広くご協力を呼びかけ、多くの皆様にご賛同いただき、「工房 時」「野ざきの家」と2つの大きな事業の立ち上げに協力することができました。

今年も、地域の皆様をはじめ、多くの方におおぞら会の活動を知っていただけるよう、後援会として一層の努力をしてみたいと思います。皆様の温かい応援の声を、よろしく願いいたします。

本年が皆様にとって幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

おおぞら会後援会
会長 吉野 壽夫

後援会へのご入会・ご更新ありがとうございました(2011/9/6~11/30・敬称略)

14名の方から、ご入会・ご更新の手続きをいただきました。ありがとうございました。

法人への寄付

6名の方から、ご寄付をいただきました。ありがとうございました。

千人会協力寄付金

4名の方から、ご寄付をいただきました。ありがとうございました。

皆様ありがとうございました。大切にに使わせていただきます

助成事業完了のお礼

このたび、「平成23年度共同募金」助成事業を受けて、下記の事業を完了いたしました。ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、社会福祉法人東京都共同募金会をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し謹んで感謝の意を表します。

記

事業名	授産事業用備品整備
事業の内容	製麺機の購入
助成金額	136万円
実施場所	工房 時
完了年月日	平成23年8月29日



このたび、NHK 歳末たすけあい義援金を受けて、下記の事業を完了いたしました。ここに事業完了のご報告を申し上げますと共に、社会福祉法人東京都共同募金会をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し謹んで感謝の意を表します。

記

事業名	送迎用車両の整備
事業の内容	車両の購入
助成金額	253万円
実施場所	アケビ・ティエム-はばたけ
完了年月日	平成23年10月27日



*昨年度助成完了事業でしたが、東日本大震災の影響により、年度を越しての完了となりました。

Information

はばたけのており 冬の展示会 2011



はばたけており展。

2011.1.6(木) ~ 1.31(火)

食茶房むうぷ ギャラリー

(OPEN: Mon~Fri 11:30~15:30)

- * 「食茶房むうぷ」は、杏林大学病院にあるレストランです。ランチや喫茶もごさいますので、ぜひご利用ください。お問い合わせは、はばたけまで。(むうぷへのお問い合わせはご遠慮ください)
- * アクセス：小田急バス 三鷹駅・吉祥寺駅・調布駅より「杏林大学病院前」下車すぐ

求人情報・・・おおぞら会では、下記の事業所で職員を募集しています。

詳しくは「おおぞら会本部」へお問い合わせください。
また、「福祉のお仕事」www.fukushi-work.jp/にて情報を公開しています。

アクティビティセンターはばたけ (支援員：正職員)
グループホーム・ケアホーム (世話人：正職員)
野ざきの家 (介護員：正職員)
工房 時 (就労支援員：契約職員)

法人本部(人事担当：三浦) 0422 30 5571

社会福祉法人おおぞら会

- ・ **アクティビティセンターはばたけ** (知的障害者授産施設[通所]) 三鷹市野崎 3-17-9 tel 0422-32-3234
- ・ **工房 時** (就労移行事業・就労継続B型) 三鷹市野崎 2-6-41 tel 0422-30-5571
- ・ **野ざきの家** (小規模多機能型居宅介護事業) 三鷹市野崎 2-6-41 tel 0422-30-5575
- ・ **サポートネットあすは** (移動支援[居宅介護]事業) 武蔵野市八幡町 1-6-1 tel 0422-36-5151
- ・ **あすは Kids** (児童デイサービス) 武蔵野市八幡町 1-6-1 tel 0422-36-5151
- ・ **ショートステイさくら** (短期入所事業) 三鷹市井の頭 4-22-6 tel 0422-32-3234
- ・ **つなぐなかまの家・さくらハイツ** (グループホーム・ケアホーム事業)



<http://habatake.jp>

「はばたけだより」の第1号は、今から28年前。当時はひとつだけの小さな共同作業所でしたが、現在「はばたけ」だけでなく、7つの事業所を抱える法人となりました。はばたけだよりとして、後援会の会員の皆様や地域の方々にお伝えする内容も、変化の時を迎えているのかなと感じています。今回は全事業所の様子を掲載しましたが、各事業所が「日々障がい者や高齢者の地域生活に必要な支援をどのように実践しているのか」という見えない部分をお伝えするには、もっと工夫が必要だなと課題も見えました。

おおぞら会の事業がそれぞれ地域の中に根つき、広がるよう、今年のだよりも充実させていきたいと思っておりますので、ぜひご愛読ください。よろしく願いいたします。 (いりくらあきこ)

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21 【頒価 50円】

企画・編集 アクティビティセンターはばたけ 編集責任者:入倉暁子 編集委員長:入倉暁子 編集委員:川端覚子 柴田信 中野昭精